

新病院建築ニュース

スポーツ整形外科・整形外科が新たに目指すこと

当病院の理念の一つに「地域に密着した良質な医療を提供する」とあります。整形外科においても、その理念を踏まえ、新病院で目指すいくつかの構想をご紹介します。

まずは、スポーツ整形の拡充です。

平成5年より整形外科にスポーツ医学研究施設が併設され、以来、お陰様で年々患者様は増加しつつあります。

現在のスポーツ医学研究施設では膝関節を主体としたスポーツ傷害の予防と治療を行っていますが、新病院では、それをさらに先進的で患者様主体の医療として発展させ、膝関節中心のスポーツ傷害はもとより、肩、肘、足、股や四肢、さらには脊椎まで拡大し多様なスポーツ外傷に対応できるようにしていきたいと考えております。

次の構想が「センター化と診察室、手術室の増室」です。

一般整形外科という言葉は広い意味で使い、その中でもいくつかの分野においては専門的に特化し、センター化していきます。

骨粗鬆症をはじめとするロコモティブシンドローム、骨折、関節痛をはじめとする外傷や障害は一般外来として対応し、特に予防を含め地域に密着した医療として普及させていかななくてはならないと考えております。

センター化構想のある分野は、恩田医師を中心とした脊椎脊髄センター、また股関節および膝関節の人工関節センターです。その人材募集をただいま行っております。

医師が増えても外来診察がスムーズに行えるように、新病院では外来診察室を現在の6室から10室へ増室いたします。

また、スポーツ整形、一般整形、センター化した分野では患者様の増加により手術患者も増えることが予想されます。それに対応すべく、現在2.5室の手術室を新病院では4室に増室いたします。4室のうち2室は完全クリーンルームで、より安全に人工関節、人工材料を用いた手術が行えるようにいたします。

次の構想はリハビリテーション科の充実です。

整形外科の医療を行う上では、手術の有無やセンター化の有無にかかわらずリハビリテーション科との協力が必須であります。

特に超高齢化時代の現在、ロコモティブシンドロームへの対応の強化は急務です。

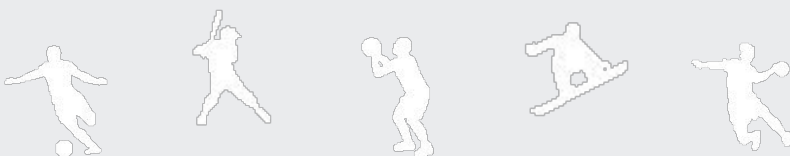
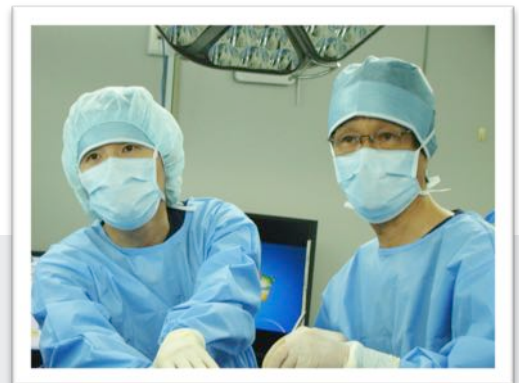
また2020年東京オリンピック開催が決まり、国民のスポーツへの関心が高まることにより、スポーツ傷害発生が増加が危惧されますが、その前段階でスポーツ傷害を予防しなくてはなりません。

そのために、リハビリテーション科の充実を行い、

さらに進歩させるように計画しております。

これらの構想を早期に実現し、おひとりおひとりの症状にあった良質な医療を提供できるように取り組んでまいります。

医療法人社団 善衆会 善衆会病院 病院長 木村 雅史



起工式を執り行いました

平成27年1月15日、朝から降り続く雨が雪に変わる中、善衆会病院移転新築工事の起工式を執り行い、工事の安全を祈る、鍬入や玉串奉奠などの神事を行いました。



移転新築工事 起工式の様子

平成27年1月15日、善衆会病院移転新築工事の起工式を執り行いました。病院からは木村病院長をはじめ、病院関係者や建築関係者、自治会連合会、自治会、民生児童委員会など地域住民の皆さまを含め、約50名の方に参列いただきました。

式典では、鍬入や玉串奉奠などの神事を行い、工事安全の祈願をいたしました。起工式に引き続き、木村病院長からご挨拶申し上げますとともに、ご来賓の方々からたくさんのご祝辞を賜りました。



これから、移転のための本格的な工事が始まります。近隣住民の皆さまには工事車両の出入りや騒音等で大変ご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



てみす
手水



くわいのぎ (うがちぞめのぎ)
鍬入之儀 (穿初之儀)

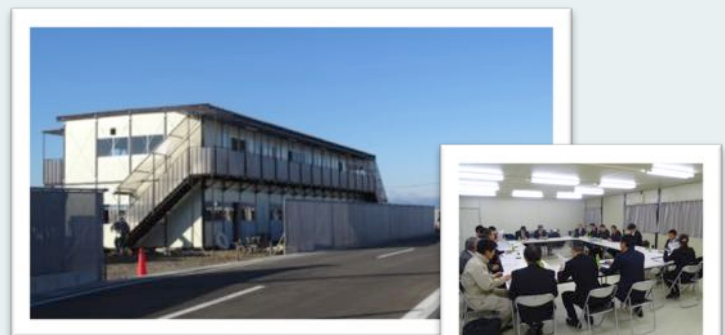


たまくしほうてん
玉串奉奠

新病院建築進捗状況



昨年末に工事敷地に仮囲いが設置されました。群馬県のお気象の特徴でもある「からっ風（山を越えて吹きつける下降気流）も考慮し、一部はメッシュシートを採用しています。



仮囲いが設置されると同時に、工事事務所も設置され、起工式終了後には、事務所内で初めての会議を行いました。